

学生支援の現場から

◆新見公立短期大学

アットホームな校風の原点★学務課

山内 圭

(学生部次長・広報部副部長・准教授)

本学は、岡山県北部の新見市にある公立短期大学(二〇一〇年四月から看護学科が四年制大学となり「新見公立大学」が併設される予定)です。新見市は、JR伯備線、姫新線、芸備線が交わる中国山地の交通の要所に位置しています。勾配のきつい伯備線では、かつて蒸気機関車が二重連・三重連となり活躍していました。本学の学務課の指導体制も職員と教員が二重・三重に連なっており、力強く学生生活を支えています。

本学は、一九八〇年、阿新広域事務組合(新見市・大佐町・神郷町・哲多町・哲西町)を設立母体とした全国初の組合立の公立短期大学として開学しました。設立母体となった一市四町の合併により二〇〇五年に市立の短期大学となり、二〇〇八年度より公立大学法人となりました。学務課等の事務局の職員は、市役所からの派遣で本学に勤務します。したがって多くの職員が何年かの勤務を終えて、再び、市役所に戻ってゆきます。

本学の学務課では、村田課長以下五名の職員が学生の指導をはじめとする様々な業務を毎日おこなっています。また、学生部長を務める宇野教授も学務課にほぼ常駐しています。その他、教員・総務課職員も次々に、学務課に出入りしています。

ここで、九月下旬のある日の学務課の様子をレポートします。

この日は、やや暑いながらも、秋のすがすがしい気候で快適な日です。学務課では、時々冗談も飛び交い、空いている窓から気持ちのよい風と共にトンボも飛んで入ってくるような開放的で居心地のよい雰囲気です。

後期は、一〇月からなので、実習のある一部のクラスを除き、授業はまだ始まっていません。それでも学内にはちらほら学生の姿が見えます。

地域看護学専攻科の学生が、実習の交通費を取りに来ました。また、同専攻科の別の学生が、九月二十六日(土)に行われる集中講義の日程について質問に来ました。身内



学務課窓口

の結婚式に出なければならぬため、集中講義に出られず、欠席届を提出したいとのことでした。学務課では、そのような際にも親身になって対応しています。

お昼が近くなり、学生達が学務課にパンを買いに来ました。本学には学生食堂があります。通常パンは食堂内で売られているのですが、夏休み中は食堂が営業休止となるため、業者がパンの箱を学務課に置いて行くのです。一応監視の目はあるのですが、学務課前に置かれたパンの箱は、一種の無人売り場状態です。しかし、これまで売上金が足りなかつたというトラブルは聞いたことがありません。ここでは、学生だけではなく、教職員もパンを買ってゆきます。また、学期中には、学務課の前に机が置かれ、文房具類の販売も行われます。これは、毎学期開催される、学友会と大学側との懇談会で出された学生からの希望により実現したコーナーです。

この日、教授会では、地域福祉学科の自己推薦入試の合格者が、決定されました。それに伴い翌日の合格発表に向けて、学務課の入試係を中心に準備を進めていました。また、この日は、前期終了とともに、遅れて卒業認定をされた幼児教育学科の学生一名のための卒業式も行われました。本学の学務課は、玄関に入ってすぐのところの位置する

ため、学校の窓口業務も行っています。この日も、入れ代わり訪れる来客への対応や配達物の受け取りなどが行われていました。

また、学務課の本務である時間割の調整作業、前期試験の得点入力作業、高校の入試関連情報の確認作業などにも追われ、職員達は、日々めまぐるしく働いています。

学生会館で学生が開く各種の懇親会にも教員だけではなく、学務課職員の姿がよく見られます。また、卒業時の謝恩会にも教員とともに学務課職員も招待されています。そして、卒業時に実施する「本学に対する満足度調査」では、学務課のアウトホームでありながらしっかりと対応は、毎年高い評価を得ています。



パン売り場



文具売り場